

## 政策目標3 活力みなぎる元気な街

### ● 重点課題1 札幌の経済を支える企業・人の支援

#### 施策の基本方針

足腰の強い経済の活力みなぎるまちを目指し、融資制度をはじめとした地域の事業者への支援を充実するとともに、地元企業の国内外への販路拡大や、製造業の高付加価値化など、企業自らの創意工夫を活かした活動を支援します。また、新たな事業にチャレンジする人への支援や経済社会環境の変化に対応した人材の育成を推進します。

#### 3-1-1 札幌の経済を支える企業の基盤強化と創業・人材育成の促進

中小企業を資金面から支援するため、既存の融資制度を継続するとともに、創業支援資金の融資対象を拡大するなど、融資制度をさらに拡充します。

また、地域の活性化を図るため、空き店舗を活用した地域の交流拠点など、地域のコミュニティ\*の核となる商店街の再生を推進するほか、新規就農の促進など新たな事業に挑戦する人への支援を行い、地域の産業を担う人材の育成を促進します。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>中小企業金融対策資金</b>  経)産業振興部 [330,211百万円]	融資に必要となる原資の一部を金融機関へ預けるなど、市内の中小企業が事業経営に必要とする資金を円滑に調達することができるよう支援します。 ○新規融資額(累計) H22:870億円 ⇒ H26:3,330億円 ○新規融資件数(累計) H22:7,000件 ⇒ H26:26,500件
<b>創業・雇用創出支援資金の拡充</b>  経)産業振興部 [2,461百万円]	創業する者および創業後間もない者、または雇用の創出に寄与する者に対し、経営が安定するまでの間、低利かつ長期の資金を提供できるよう、融資対象を拡大します。 ○新規融資件数(累計) H22:209件 ⇒ H26:1,000件
<b>札幌みらい資金【再掲】</b>  経)産業振興部 [46,708百万円]	「札幌市産業振興ビジョン」の4つの重点分野である「食」「観光」「環境」「健康・福祉」に関連する事業を経営する中小企業者等に対し、低利かつ長期の融資制度を創設します。 ○新規融資額(累計) H22: - ⇒ H26:500億円
<b>商店街再生事業</b>  経)産業振興部 [112百万円]	商店街等が地域から求められている課題に対応し、商業機能の再生を図るため、商店街の活性化に向けた長期的な計画づくり、空き店舗対策、高齢者対応事業、商店街と大学等が連携した事業に対し支援を行います。 ○計画を策定した商店街数(累計) H22: - ⇒ H26:8件 ○当該事業で新規出店により活用された空き店舗数(累計) H22: - ⇒ H26:40件
<b>コミュニティ*型建設業創出事業</b>  経)産業振興部 [28百万円]	地域や個人のさまざまな生活ニーズと建設業が持つ人材・技術・機械などの経営資源を活用し、地域に根差した新たな事業の展開を進めるため、市民が安心して仕事を頼めるしくみをつくるほか、両者を仲介する事務局の運営を支援します。 ○自立した事務局数 H22: - ⇒ H26:3事務局

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>地域雇用創造推進事業 【再掲】</b>  経)雇用推進部 [ - ]	「札幌市産業振興ビジョン」の4つの重点分野である「食」「観光」「環境」「健康・福祉」において、地域の産業を担う人材の育成を図り、雇用を創出するための事業を実施します。  ○事業利用者数 H22： - ⇒ H25：2,450人 ○雇用創出数 H22： - ⇒ H25：425人
<b>さっぽろ夢農業人育成 支援事業</b>  経)農政部 [36百万円]	さっぽろ農学校*修了生等の新規就農を促進するため、農業技術を実際の生産現場で習得できる研修農場を整備します。また、就農地の確保や就農計画等のアドバイスを行う就農支援サポート体制を構築します。  ○研修農場設置箇所数 H22： - ⇒ H26：3カ所 ○研修事業受講者数 H22： - ⇒ H26：9人

### 3-1-2 企業の新たな分野進出や販路拡大へ向けた取り組みの充実

中国などのアジア圏諸国との経済交流を促進し、市内企業のグローバル化\*や海外展開に対する取り組みを進めるほか、市内・道内の卸売業者とメーカーとのマッチング\*を実施するなど、市内中小企業の国内外への販路拡大に対する支援を拡充します。

また、専門的な知識を有するコーディネーター\*を配置し、北海道内で他産業との連携を促進することにより、企業の新たな分野進出を支援します。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>アジア圏等経済交流促進 事業</b>  経)産業振興部 [141百万円]	中国をはじめとしたアジア圏における現地情報や市場動向を把握し、各支援機関との連携の下、商談会等を通じて販売先や調達先を確保するための支援を行い、札幌市内企業のグローバル化*への対応と海外展開を促進します。  ○商談会延べ参加企業数 H22：251社 ⇒ H26：375社 ○食品の海外物産展や商談会の開催数 H22：4回 ⇒ H26：6回
<b>卸売業活用型販路拡大 支援事業</b>  経)産業振興部 [18百万円]	優れた商品や技術を有する市内・道内メーカーと、道内外に販売ルートを有する市内・道内卸売企業群との商談会によるマッチング*事業を実施し、卸売企業が持つ流通機能を活用した販路拡大を支援します。  ○商談金額 H22：80,860千円 ⇒ H26：126,000千円
<b>首都圏ビジネス・ マッチング*支援事業</b>  経)東京事務所 [18百万円]	「札幌市産業振興ビジョン」の4つの重点分野である「食」「観光」「環境」「健康・福祉」を中心に、高い技術や優れた商品を持つ札幌企業に対して、首都圏での販路拡大を支援するため、コンサルティング*およびビジネスマッチング*を行います。  ○応募した札幌企業数 H22：11企業 ⇒ H26：15企業
<b>札幌市中央卸売市場 戦略的経営支援事業</b>  経)中央卸売市場 [67百万円]	道産品の道内外への販売促進および仲卸業者の経営基盤の強化を行うことにより、市場を活性化するとともに、北海道経済の振興につなげるため、市場流通品の販路拡大や経営近代化の支援を行います。  ○販路拡大事業による売上 H22： - ⇒ H26：1,500百万円
<b>道内連携マッチング*事業</b>  経)産業振興部 [52百万円]	道内1次産業者、食料品製造者、その他製造業担当のコーディネーター*を配置し、道内の農業者のニーズを把握するとともに、収集した情報を活かし、1次産業者と市内ものづくり産業との連携を促進します。  ○道内1次産業者、市内ものづくり企業への訪問件数(累計) H22： - ⇒ H26：1,120件 ○商談件数(累計) H22： - ⇒ H26：320件

\*さっぽろ農学校 新たな農業の担い手や農業応援団の育成を目的として、札幌市が開催する講座。

\*コンサルティング 専門家の立場から相談にのったり指導したりすること。

## さっぽろ“えがお”指標

	現 状 値	目 標 値
<b>【市民意識・行動指標】</b>		
・経営が安定したと答える企業の割合	－ (H22)	30% (H26)
・新製品・新技術の開発や新分野の進出に取り組むと答える企業の割合	－ (H22)	50% (H26)
・グローバル化*への取り組みを行っている企業の割合	16% (H22)	25% (H26)
<b>【社会成果指標】</b>		
・市内企業の創業件数	1,903件 (H22)	2,000件 (H26)
・展示会・商談会への参加企業の売上高	68億円 (H22)	70億円 (H26)

## 各主体の主な役割



## 政策目標3 活力みなぎる元気な街

### 重点課題2 札幌の強みを活かした産業の育成と企業の誘致

#### 施策の基本方針

道都として北海道経済を牽引しながら経済活性化を図るため、札幌に強みがあり、新たな経済成長の原動力となる「食」「観光」「環境」「健康・福祉」の4つの重点分野を振興します。そのため、新たな融資制度「札幌みらい資金」や新商品開発への助成制度を創設するほか、道内自治体や経済団体との連携による「北海道フードコンプレックス\*国際戦略総合特区\*構想」を推進します。また、これまでのIT・コンテンツ分野の蓄積を活かした産業の活性化や付加価値の創出を行うほか、戦略的な企業誘致を推進します。

#### 3-2-1 札幌市経済の成長を牽引する重点分野の振興

札幌に強みがあり、新たな経済成長の原動力となる分野に関連する中小企業者等に対し、低利かつ長期の融資制度を新たに創設します。また、北海道の豊富な「食」の高付加価値化に向けた取り組みを進めるほか、今後成長が期待される「環境」「健康・福祉」分野における新たな産業の創出に向けた取り組みを産学官連携により進めます。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>札幌みらい資金</b>  経)産業振興部 [46,708百万円]	「札幌市産業振興ビジョン」の4つの重点分野である「食」「観光」「環境」「健康・福祉」に関連する事業を経営する中小企業者等に対し、低利かつ長期の融資制度を創設します。 ○新規融資額(累計) H22: - ⇒ H26: 500億円
<b>産業振興ビジョン推進補助</b>  経)産業振興部 [102百万円]	「札幌市産業振興ビジョン」の4つの重点分野である「食」「観光」「環境」「健康・福祉」分野と高い付加価値を創り出す「ものづくり」分野の振興を図るため、それらの企業が行う新製品・新技術開発への補助事業を実施します。 ○重点分野開発推進事業の補助件数(累計) H22: - ⇒ H26: 20件
<b>6次産業活性化推進補助事業</b>  経)産業振興部 [104百万円]	道内の1次産業者と市内の2次・3次産業者が連携し、道内の農水畜産資源を活用して行う新商品開発の取り組みに対する支援を行います。 ○補助件数(累計) H22: - ⇒ H26: 20件
<b>北海道フードコンプレックス*国際戦略総合特区*構想の推進</b>  経)産業振興部 [-]	道内食産業の高付加価値化と海外販路拡大を図るため、道内自治体や経済団体と連携し、「北海道フードコンプレックス*国際戦略総合特区*構想」の取り組みを推進します。 ○国際戦略総合特区*の採択 H22: - ⇒ H23: 採択
<b>健康サービス産業推進事業</b>  経)産業振興部 [40百万円]	「札幌市産業振興ビジョン」の4つの重点分野の一つである「健康・福祉」産業の活性化を図るため、健康サービスの新たなビジネスモデル*の企画・運営に対する支援を行います。 ○補助件数(累計) H22: - ⇒ H26: 16件

\*コンプレックス 複合。複合体。

\*国際戦略総合特区 総合特別区域法に基づく総合特区の一つ。日本経済を牽引することが期待される産業の国際競争力の強化を目的として、産業・機能の集積拠点等を形成する特区。

\*IT インフォメーション・テクノロジー (Information Technology) の略。情報処理、情報技術。

\*コンテンツ 文章、音楽、画像、映像またはそれらを組み合わせた情報の集合のこと。

\*ビジネスモデル ビジネスのしくみ。事業として何を行い、どこで収益を上げるのかという利益を生み出す具体的なしくみ。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>福祉産業共同研究事業</b>  経) 産業振興部 [50百万円]	「札幌市産業振興ビジョン」の4つの重点分野の一つである「健康・福祉」分野において、医療・介護・看護・福祉分野における大学等の研究者が企業等と連携して行う共同研究の取り組みに対して支援を行います。 ○補助件数(累計) H22: - ⇒ H26: 24件
<b>札幌発の環境産業創出事業</b>  経) 産業振興部 [60百万円]	「札幌市産業振興ビジョン」の4つの重点分野の一つである「環境」分野において、札幌市の特色を活かした新・省エネルギーの開発など、産業としての実現可能性調査・基礎研究を大学等の研究機関で行い、調査・研究結果をもとに実証実験を行います。 ○調査・研究件数(累計) H22: - ⇒ H26: 6件

### 3-2-2 札幌ならではの魅力を活かした新しい産業の創出

IT\*・コンテンツ\*産業の振興を図るため、IT\*企業と他産業とのマッチング\*の実施や映画のロケーション\*の積極的な誘致を行うほか、基幹系情報システム\*再構築への地場IT\*企業の参入機会を拡大します。  
また、札幌ならではのプロスポーツやウィンタースポーツ分野において、創造性あるビジネスモデル\*に対して支援を行い、札幌の魅力を活かした新たな産業の創出を促進します。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>IT*活用ビジネス拡大事業</b>  経) 産業振興部 [24百万円]	市内IT*企業と道内で強みや可能性を持つ「食」「観光」「環境」「健康・福祉」分野等とのマッチング*を通じて、新たな製品やサービスの創出を促進します。 ○マッチング*による契約成立件数 H22: - ⇒ H26: 10件
<b>札幌コンテンツ特区*構想の推進</b>  経) 産業振興部 [-]	札幌や北海道における映像制作や販売数の増加、観光や食など他産業への波及を図るため、映像関連団体と連携し、「札幌コンテンツ特区*構想」の取り組みを推進します。 ○コンテンツ特区*の採択 H22: - ⇒ H23: 採択 ○ロケーション*の誘致に基づく撮影日数 H22: 1,428日 ⇒ H26: 3,000日
<b>基幹系情報システム*再構築事業</b>  総) 情報化推進部 [4,663百万円]	札幌市の行政サービスを支える基幹系情報システム*について、老朽化に伴う再構築を行います。また、調達の透明性を高め、地場IT*企業の参入機会を拡大します。 ○住記系システム*の稼働 H22: - ⇒ H24: 稼働 ○税・国保・収納・滞納システム*の稼働 H22: - ⇒ H26: 稼働
<b>スポーツを活用した札幌産業活性化事業</b>  経) 産業振興部 [25百万円]	プロスポーツやウィンタースポーツなど札幌の魅力あふれるスポーツ分野において、創造性あるビジネスモデル*をコンテスト形式により公募し、事業の実施を行うことで、スポーツを活用した新たな産業を確立します。 ○スポーツを活用したビジネスモデル*創出数 H22: - ⇒ H26: 20件

- \***ロケーション** ここでは、屋外での撮影。ロケ。
- \***基幹系情報システム** 一般的には、企業がビジネスを遂行するために不可欠な主要業務を処理するために用いられているコンピュータシステムのこと。札幌市にとっての基幹系情報システムは住民記録や税、福祉などの市民サービスの根幹を担う業務システムのことをいう。
- \***コンテンツ特区** 総合特別区域法に基づく総合特区の一つ。地域の活性化を目的として、コンテンツを最大限活用して地域力の向上を目指す特区。
- \***住記系システム** 札幌市のコンピュータシステムのうち、主に住民記録や印鑑証明等に関連する業務を行うもの。
- \***税・国保・収納・滞納システム** 札幌市のコンピュータシステムのうち、主に税金や国民健康保険に関連する業務を行うもの。

### 3-2-3 札幌の優位性を活かした企業の誘致

経済の活性化を図るため、近隣自治体と連携して、健康・医療分野、環境エネルギー分野など、技術革新分野の企業の立地促進に向けて、新たな誘致制度を創設するとともに、札幌市エレクトロニクスセンターの一部を改修し、国内外の食・バイオ\*関連企業の新たな研究開発拠点とします。

また、経済の活性化や新規雇用の創出が期待できるコールセンター\*等の立地を引き続き進めます。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>札幌圏みらいづくり産業立地促進事業</b> 経)産業振興部 [216百万円]	札幌市の産業基盤の強化等を図るため、国内において成長発展が見込まれる技術革新分野の産業集積に取り組みます。このため、新たな立地支援制度を創設し、近隣自治体と連携して、研究開発施設や製造施設等の立地を促進します。 ○当該事業による企業の新設・増設件数 H22：－ ⇒ H26：8件
<b>札幌テクノパーク・リノベーション推進事業</b> 経)産業振興部 [200百万円]	札幌テクノパークを従来のIT*産業に加えてバイオ*や食関連の研究開発拠点として再構築します。食品評価手法等の研究開発の場を提供し、国内外の食・バイオ*関連企業の受け皿とするため、札幌市エレクトロニクスセンターの技術開発室の一部をウェットラボ*仕様の居室へ改修します。 ○改修後の技術開発室への入居率 H22：－ ⇒ H26：80%
<b>雇用創出型ニュービジネス*立地促進事業</b> 経)産業振興部 [558百万円]	多くの雇用創出が期待できるコールセンター*やニュービジネス*について、引き続き積極的な誘致活動を行い、企業の立地を促進します。 ○事業所開設・増設件数(累計) H22：59件 ⇒ H26：89件

### 3-2-4 道都としての役割を発揮し北海道の活性化に向けた道内市町村との連携強化

北海道の中心都市としての役割を発揮し、北海道全体の活性化や魅力向上を目指し、道内の1次産業者と連携した製品開発や国際総合特区構想の推進、札幌圏を対象とした企業誘致制度の創設などを行います。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>道内連携マッチング*事業【再掲】</b> 経)産業振興部 [52百万円]	道内1次産業者、食料品製造者、その他製造業担当のコーディネーター*を配置し、道内の農業者のニーズを把握するとともに、収集した情報を活かし、1次産業者と市内ものづくり産業との連携を促進します。 ○道内1次産業者、市内ものづくり企業への訪問件数(累計) H22：－ ⇒ H26：1,120件 ○商談件数(累計) H22：－ ⇒ H26：320件
<b>6次産業活性化推進補助事業【再掲】</b> 経)産業振興部 [104百万円]	道内の1次産業者と市内の2次・3次産業者が連携し、道内の農水畜産資源を活用して行う新商品開発の取り組みに対する支援を行います。 ○補助件数(累計) H22：－ ⇒ H26：20件

\*バイオ バイオテクノロジーの略。生物工学。生物を工学的見地から研究し、応用する技術。

\*コールセンター 電話やインターネットを通じて、問い合わせの対応や商品の受注などの顧客対応業務を専門的・集約的に行う組織・施設。

\*ウェットラボ 生物や化学などの実験を行うため、液体を取り扱えるように、換気機能や給排水等の設備が整備された試験・研究室。

\*ニュービジネス ここでは、主に企業の人事、総務、経理などの事務処理およびデータ入力などの情報処理を行う事業を指す。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>北海道フードコンプレックス* 国際戦略総合特区*構想の 推進【再掲】</b> 経)産業振興部 [ - ]	<p>道内食産業の高付加価値化と海外販路拡大を図るため、道内自治体や経済団体と連携し、「北海道フードコンプレックス*国際戦略総合特区*構想」の取り組みを推進します。</p> <p>○国際戦略総合特区*の採択 H22： - ⇒ H23：採択</p>
<b>札幌コンテンツ特区*構想 の推進【再掲】</b> 経)産業振興部 [ - ]	<p>札幌や北海道における映像制作や販売数の増加、観光や食など他産業への波及を図るため、映像関連団体と連携し、「札幌コンテンツ特区*構想」の取り組みを推進します。</p> <p>○コンテンツ特区*の採択 H22： - ⇒ H23：採択            ○ロケーション*の誘致に基づく撮影日数            H22：1,428日 ⇒ H26：3,000日</p>
<b>札幌圏みらいづくり産業 立地促進事業【再掲】</b> 経)産業振興部 [216百万円]	<p>札幌市の産業基盤の強化等を図るため、国内において成長発展が見込まれる技術革新分野の産業集積に取り組みます。このため、新たな立地支援制度を創設し、近隣自治体と連携して、研究開発施設や製造施設等の立地を促進します。</p> <p>○当該事業による企業の新設・増設件数 H22： - ⇒ H26：8件</p>
<b>健康サービス産業推進 事業【再掲】</b> 経)産業振興部 [40百万円]	<p>「札幌市産業振興ビジョン」の4つの重点分野の一つである「健康・福祉」産業の活性化を図るため、健康サービスの新たなビジネスモデル*の企画・運営に対する支援を行います。</p> <p>○補助件数(累計) H22： - ⇒ H26：16件</p>
<b>福祉産業共同研究事業 【再掲】</b> 経)産業振興部 [50百万円]	<p>「札幌市産業振興ビジョン」の4つの重点分野の一つである「健康・福祉」分野において、医療・介護・看護・福祉分野における大学等の研究者が企業等と連携して行う共同研究の取り組みに対して支援を行います。</p> <p>○補助件数(累計) H22： - ⇒ H26：24件</p>
<b>広域連携による観光振興 【再掲】</b> 観)観光コンベンション部 [13百万円]	<p>さっぽろ広域観光圏*を中心とする近隣市町村や北海道内の中核都市などとの地域間連携により、札幌市内の滞在促進や観光客の増加を図るためのさまざまな事業を実施します。</p> <p>○圏域内連携事業数(累計) H22： - ⇒ H26：3事業            ○中核都市連携事業数(累計) H22： - ⇒ H26：3事業</p>

\*さっぽろ広域観光圏 札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村の8市町村で構成。圏域内の周遊・滞在型観光を推進するためのしくみづくりや商品の造成、PRを連携して実施。

## さっぽろ“えがお”指標

	現 状 値	目 標 値
<b>【市民意識・行動指標】</b>		
・産・学の連携により経営改善を図ろうとしている企業の割合	－ (H22)	20%(H26)
・IT*・コンテンツ*を活用して高付加価値をつけようと思っている企業の割合	－ (H22)	15%(H26)
<b>【社会成果指標】</b>		
・食品製造業の付加価値額	691億円(H21)	750億円(H26)
・市内食品製造業の輸出額	9億円(H20)	18億円(H26)
・市内バイオ*産業の売上高	270億円(H22)	430億円(H26)
・誘致施策を活用し立地した企業数(累計)	53件(H22)	90件(H26)

## 各主体の主な役割



## 政策目標3 活きみなぎる元気な街

### ● 重点課題3 文化芸術や地域ブランドを活かした観光・MICEの推進

#### 施策の基本方針

世界中から人が訪れる集客交流都市を目指して、食や自然等の地域ブランドを活用するとともに、芸術文化が経済を牽引するという創造都市\*の理念の具体化として、国際芸術展\*の開催や、ユネスコ創造都市ネットワーク\*へ加盟するなど、新しい価値や産業の創造へ向けた取り組みを行い、国内外への積極的な情報発信により、観光客の誘致促進を図ります。また、これまでコンベンション\*の取り組みで蓄積してきたノウハウを活かしながら、産業界や学术界と連携して国内外のMICE\*（会議、報奨旅行\*、国際会議・学会、イベント・展示会）の誘致を進めます。

#### 3-3-1 文化芸術や地域ブランドなどを活かした観光魅力づくりの推進

国際芸術展\*の開催やユネスコ創造都市ネットワーク\*へ加盟など、新しい価値や産業の創造へ向けた取り組みを行うほか、創造都市\*と連携したさっぽろ雪まつりの魅力アップを図ります。

また、将来の市民の文化芸術・創造活動の拠点となる（仮称）市民交流複合施設の整備や、豊平館の集客交流資源としての整備など、文化財や芸術を活かした新たな観光魅力づくりを行います。

事業名・担当部 （計画事業費）	事業内容 達成目標
<b>国際芸術展*の開催</b> 観)文化部 [298百万円]	「創造都市さっぽろ*」のシンボリックなイベントとして、都市と自然環境が調和した札幌特有の都市環境を活かした定期的な国際芸術展*を開催します。 ○国際芸術展*の開催 H22：－ ⇒ H26：開催
<b>創造都市さっぽろ*の推進</b> 政)政策企画部 [79百万円]	創造性を活かした産業振興や地域活性化により、都市課題の解決を図る「創造都市さっぽろ*」の取り組みとして、ユネスコ創造都市ネットワーク*への加盟を目指すとともに、札幌駅前通地下歩行空間を活用し、市民やクリエイター*の創造的活動を支援します。 ○ユネスコ創造都市ネットワーク*への加盟 H22：－ ⇒ H24：加盟承認 ○創造都市*アワード*への募集件数 H22：－ ⇒ H26：200件
<b>シティプロモート*推進</b> 政)政策企画部 [68百万円]	札幌のブランドイメージを構築するシティプロモート*の総合戦略を策定するとともに、二地域居住の促進や札幌のライフスタイルの発信など新たな都市イメージを発信する事業を庁内連携の下で実施します。 ○シティプロモート*戦略の策定 H22：－ ⇒ H23：策定 ○モニター応募数 H22：74組 ⇒ H26：200組

\* **国際芸術展** 世界中の芸術家の作品展示を行うとともに、講演会など芸術家と住民・観光客が交流する各種プログラムを実施するため、世界各国で開催されている文化芸術イベント。世界ではベネツィアビエンナーレ（隔年開催）が有名。日本では横浜トリエンナーレ（3年に1回開催）、神戸ビエンナーレなどが開催されている。

\* **ユネスコ創造都市ネットワーク** ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が、文学、映画、デザイン、メディアアートなど7つの分野から、世界でも特色ある都市を認定し、その都市間交流を通じて文化産業の強化による都市の活性化および文化多様性への理解促進を図る取り組み。

\* **コンベンション** 国際機関・団体等が主催する国際会議や全国規模の大会や学会。

\* **MICE** Meeting（会議）、Incentive travel/tour（報奨旅行）、Convention（国際会議・学会）、Event/Exhibition（イベント・展示会）の頭文字をとった造語。マイルス。

\* **報奨旅行** 企業が従業員等の努力や勤労に報いて実施する旅行。

\* **創造都市さっぽろ** 創造都市を目指した札幌市の取り組みであり、文化芸術の多様な表現に代表される創造性を活かした産業振興や地域の活性化、多様な交流を図るもの。

\* **クリエイター** 創造的な仕事をしている人。作家、制作者。

\* **アワード** 賞、栄誉のこと。

\* **シティプロモート** 地域を持続的に発展させるために、地域の魅力を地域内外に効果的に訴求（発信し意欲に働きかける）し、それにより、人材、物財、資金、情報などの資源を地域内部で活用可能としていくこと。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>さっぽろ雪まつり魅力アップ事業</b> 観)観光コンベンション部 [424百万円]	さっぽろ雪まつりの集客力や経済効果の向上のため、雪遊びや雪体験の魅力の提供を続けるほか、「創造都市さっぽろ*」の取り組みと連携して札幌駅前通地下歩行空間での雪まつりPR活動を行います。 ○創造都市*と連動した雪まつりの開催 H22：－ ⇒ H24：開催
<b>(仮称)市民交流複合施設の整備</b> 市)都市計画部 観)文化部 [7,793百万円]	2,300席規模のホール等を備え、将来の市民の文化芸術・創造活動の拠点となる「(仮称)市民交流複合施設」について、北1西1地区再開発事業により整備します。 ○(仮称)市民交流複合施設の整備 H22：検討 ⇒ H26：着工
<b>文化財施設の整備</b> 観)文化部 [905百万円]	文化財の良好な保存活用のために、市が所有する豊平館など、計画的な保存修理と集客交流資源としての整備を実施します。 ○補修工事等の実施 H22：－ ⇒ H26：1施設 ○保全計画の策定 H22：－ ⇒ H26：1施設
<b>広域連携による観光振興</b> 観)観光コンベンション部 [13百万円]	さっぽろ広域観光圏*を中心とする近隣市町村や北海道内の中核都市などとの地域間連携により、札幌市内の滞在促進や観光客の増加を図るためのさまざまな事業を実施します。 ○圏域内連携事業数(累計) H22：－ ⇒ H26：3事業 ○中核都市連携事業数(累計) H22：－ ⇒ H26：3事業
<b>定山溪地区整備促進事業</b> 観)観光コンベンション部 [23百万円]	定山溪地区の観光資源としての魅力向上を目指し、エリア全体としての総合的な再整備に向けた構想策定を行います。 ○定山溪に宿泊した人へのアンケート H22：－ ⇒ H26：1,000サンプル ○シンポジウム・市民会議等への市民参加 H22：－ ⇒ H26：500人
<b>さっぽろアートステージの開催【再掲】</b> 観)文化部 [114百万円]	市内各所で舞台芸術・音楽・美術などの文化芸術イベントを、毎年11月に集中的に開催する「さっぽろアートステージ」を引き続き実施して、街中に文化芸術によるにぎわいを創出するとともに、国際芸術展*の市民プログラム事業としての位置づけについて検討します。 ○さっぽろアートステージの開催 H22：1回 ⇒ H26：現状維持
<b>パシフィック・ミュージック・フェスティバルへの補助</b> 観)文化部 [739百万円]	世界三大教育音楽祭として成長を続けているパシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)に対して、事業費の補助による支援を行います。 ○PMF修了生の延べ人数 H22：2,649人 ⇒ H26：3,000人
<b>サッポロ・シティ・ジャズの拡充</b> 観)文化部 [9百万円]	プロのジャズライブや公募バンドによる無料ライブ、ワークショップ*などを行うサッポロ・シティ・ジャズを開催します。今後は、特にアジア・オセアニア圏への広報活動を強め、国外へサッポロ・シティ・ジャズの周知を図ります。 ○入場者数 H22：80,921人 ⇒ H26：100,000人
<b>500m美術館の整備【再掲】</b> 観)文化部 [113百万円]	地下鉄大通駅からバスセンター前駅間の地下歩行空間にアート作品を展示する環境を整備し、さまざまなアート作品を年間を通じて展示することで、札幌で活躍するアーティスト(芸術家)を内外に発信し、市民が多彩な芸術文化に触れる機会を提供します。 ○展示替え回数 H22：1回 ⇒ H26：4回
<b>ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo開催【再掲】</b> 総)国際部 [34百万円]	姉妹都市ミュンヘン市の伝統行事であるクリスマス市を大通公園で開催し、異文化理解の促進、市民の姉妹都市意識の醸成を図るとともに、初冬季の観光集客、都心空間のにぎわいや魅力の創出につなげていきます。 ○来場者数 H22：671千人 ⇒ H26：750千人

政策  
目標3  
重点  
課題3

文化芸術や地域ブランドを  
活かした観光・MICEの推進

\*ワークショップ 専門家の助言を受けながら、参加者が共同で研究や創作を行う場。

### 3-3-2 MICEの推進と観光客の受入強化、誘致促進

国際会議や報奨旅行\*をはじめとするMICE\*の開催適地として国内外にPRするなどし、MICE\*誘致を推進します。

また、地域や対象に合わせて戦略的な観光客誘致を行うとともに、来札者の満足度向上により再訪者の増加を図るため、携帯端末\*を活用した観光情報提供やパンフレットの映像化・多言語化などによる受入体制の強化や、おもてなし推進の取り組みなどを行います。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>MICE*推進事業</b> 観) 観光コンベンション部 [92百万円]	札幌をMICE*の開催適地として国内外にPRし、開催支援・受入基盤の整備等を行い、戦略的にMICE*誘致に取り組みます。 ○海外見本市での商談件数 H22：120件 ⇒ H26：145件
<b>シティ・リゾートウエディング推進事業</b> 観) 観光コンベンション部 [35百万円]	挙式を兼ねた旅行の誘致も視野に入れながら、香港等からのフォトウエディング（結婚記念写真旅行）の誘致のためのPRやモデルツアーを実施します。また、これに併せ、受入環境の充実や新たな魅力づくりを進めます。 ○モニターツアー開催都市（累計） H22：－ ⇒ H26：2都市 ○広報媒体によるPR回数（累計） H22：－ ⇒ H26：4回
<b>国際観光誘致事業</b> 観) 観光コンベンション部 [16百万円]	市場の拡大が著しい中国において、観光客の誘致を図るため現地採用職員を配置するなどし、より重点的な誘致活動を行います。 ○国際観光プロモーション事業および招請事業の件数 H22：16件 ⇒ H26：20件
<b>国内観光振興事業</b> 観) 観光コンベンション部 [53百万円]	地域別、対象別に、直接または各メディア*や旅行会社などとの連携により、国内の一般消費者に対する観光情報の発信を行い、また、観光客の札幌滞在をより充実させるための魅力づくりにも取り組みます。 ○国内向けPR事業の実施回数（累計） H22：2回 ⇒ H26：8回 ○国内向け観光PRツールの更新回数（累計） H22：－ ⇒ H26：4回
<b>首都圏における札幌のシティPR*事業</b> 総) 東京事務所 [58百万円]	観光客等を札幌に誘致するため、首都圏の旅行会社や出版会社等とのネットワークを活用するとともに、メディア*やイベントを通じて、文化や芸術、食、イベント、都市環境などの札幌の魅力を首都圏に広くPRします。 ○首都圏におけるシティPR*の露出回数（累計） H22：10回 ⇒ H26：14回
<b>ICT*を活用した札幌まちなめくり事業</b> 観) 観光コンベンション部 [31百万円]	携帯端末*などで動画視聴、観光情報の入手が可能なシステムを構築し、既存のパンフレットの電子化などにより、コンテンツ*の充実化を進め、札幌のまちなめくりを促進します。 ○電子化した紙媒体のコンテンツ*数（累計） H22：－ ⇒ H26：50件
<b>おもてなし推進・レベルアップ事業</b> 観) 観光コンベンション部 [13百万円]	おもてなしの推進と受入体制の強化により、来札者の満足度を向上させ、再訪者の増を図ります。 ○多言語対応したパンフレットの種類 H22：6種類 ⇒ H26：21種類

\*携帯端末 スマートフォン（パソコン並みの多彩な機能を持つ携帯電話）やタブレットパソコン（平板状で携帯可能なパソコン）など。  
\*メディア 媒体。新聞や雑誌、テレビ、ラジオのほか、インターネット、Webサイトなど。  
\*シティPR 都市の知名度やイメージの向上を図るための各種PR。  
\*ICT Information and Communication Technologyの略。情報通信技術。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>さっぽろオータムフェスト 市内周遊促進事業</b>  観)観光コンベンション部 [15百万円]	秋の集客増を図るため、北海道・札幌の食をテーマに大通公園で「さっぽろオータムフェスト」を実施し、創成川東地区など市内各地域で行われている既存イベントとの連携を図り、市内全体ににぎわいを創出し、市民および観光客の市内周遊を促進します。  ○国内向けPR事業の実施回数 H22：2回 ⇒ H26：8回 ○連携地区数 H22：2地区 ⇒ H26：5地区
<b>スポーツツーリズム*推進 事業【再掲】</b>  観)スポーツ部 [15百万円]	ウィンタースポーツをはじめとする札幌の豊富なスポーツを資源としたスポーツツーリズム*の推進を図り、観光客の集客につなげます。  ○展示会ブース*出展および見学ツアー開催回数（累計） H22： - ⇒ H26：12回

\***スポーツツーリズム** スポーツ観戦、スポーツイベントへの参加やスポーツボランティア参加などのスポーツ資源を最大限に活用した訪日旅行・国内観光の活性化を図るための取り組み。

\***ブース** 間仕切りをした場所や小部屋のこと。

## さっぽろ“えがお”指標

	現 状 値	目 標 値
<b>【市民意識・行動指標】</b>		
・ 観光地としての総合満足度	94.7% (H22)	95% (H26)
・ 滞在中に受けたおもてなしの満足度	89.9% (H22)	95% (H26)
・ 観光情報の提供についての満足度	86.9% (H22)	90% (H26)
<b>【社会成果指標】</b>		
・ 年間来客数	1,260万人 (H22)	1,400万人 (H26)
・ 市内主要イベントの観客者数	864万人 (H22)	900万人 (H26)
・ 外国人宿泊者数	62万人 (H22)	100万人 (H26)
・ 国際会議の開催件数	83件 (H22)	100件 (H26)
・ 札幌市内での総観光消費額	3,689億円 (H22)	4,000億円 (H26)

## 各主体の主な役割

### 市民・町内会・NPO\*等

- 芸術、文化、イベント、観光資源などの札幌の魅力に触れ、楽しむ
- 自らの街の魅力、歴史への理解を深める
- おもてなし活動の実践
- 各地域における盛り上げ など

### 企業等

- 官民連携による受入体制の充実・強化
- 観光魅力づくり
- 旅行商品の開発、誘致宣伝活動 など



### 関係団体・アーティスト等

- アーティスト（芸術家）による創作・表現活動への参加
- 国内外向けの誘致宣伝活動
- 観光客受入対応の充実
- 観光魅力の保護・活用の促進 など

### 行政

- 創作活動の場の提供
- 官民連携の体制・環境づくり
- 受入体制整備
- おもてなし意識啓発・取り組み
- MICE\*に対する理解の促進 など

## 政策目標3 活力みなぎる元気な街

### 重点課題4 将来を見据えた魅力ある都市の整備

#### 施策の基本方針

超高齢社会\*の進展や環境への影響に配慮しながら、都市の魅力を高め、持続的に発展していくため、都心や苗穂駅周辺地区など地域特性に応じた拠点のまちづくりを進め、コンパクトシティ\*への再構築を推進します。また、総合的な交通計画を策定し、公共交通機関を軸とした交通体系の確立を図るとともに、路面電車の延伸、北海道新幹線の札幌延伸、自転車の利用環境の充実などを推進します。

#### 3-4-1 道都札幌を支える交通体系の構築

都市機能の持続的発展・成長を実現する都市交通を目指して、路面電車の延伸の推進やICカード\*「SAPICA」の導入拡大など公共交通の利便性の向上を進めるとともに、持続可能な地域交通体系の検討や公共交通に対する意識の醸成を図ります。

また、広域的な拠点間の連携強化を図り、都市の活力を向上させるために、北海道新幹線の札幌延伸の推進や丘珠空港の利用促進を図るほか、自転車マナー向上対策や駐輪対策の推進を通じた自転車利用の適正化を進めます。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>路面電車延伸推進事業</b>  市) 総合交通計画部 [2,014百万円]	「札幌市路面電車活用方針」で示された3地域（都心・桑園・創成川以東）への路面電車の延伸に向けた調査・設計および新型低床車両の仕様検討を行い、路面電車活用計画を策定します。また、平成26年度までに既設線のループ化（西4丁目停留場とすすきの停留場の接続）を実施します。  ○路面電車活用計画の策定 H22：検討 ⇒ H23：策定 ○既設線のループ化 H22：－ ⇒ H26：完成
<b>路面電車老朽車両の更新に伴う低床車両の導入</b>  交) 高速電車部 [852百万円]	老朽化の著しい車両をすべての人が利用しやすい低床車両に更新します。  ○低床車両の導入 H22：－ ⇒ H26：3両
<b>ICカード*「SAPICA」の導入拡大と活用</b>  総) 情報化推進部 [3,297百万円]	公共交通ICカード*「SAPICA」を市内民間バスおよび路面電車へ導入するとともに、電子マネー等の多目的な利活用を推進することで利便性を向上させ、カードの一層の普及促進を図ります。  ○バス・路面電車のICカード*導入社数 H22：－ ⇒ H25：4社 ○行政等の電子マネー決済導入箇所 H22：1カ所 ⇒ H24：19カ所
<b>SAPICAの地下鉄・バス・路面電車での共通利用および他事業者の発行するICカード*の受入(片利用)</b>  交) 事業管理部 [2,174百万円]	平成25年度に市内民間バスおよび路面電車での「SAPICA」の利用を開始し、地下鉄との共通利用を図るとともに、JRなど他事業者の発行するICカード*の受入(片利用)を行います。  ○SAPICAの市内民間バスおよび路面電車への導入 H22：－ ⇒ H25：導入 ○JRなど他事業者の発行するICカード*の受入 H22：－ ⇒ H25：受入
<b>地域交通計画策定事業</b>  市) 総合交通計画部 [35百万円]	地域別の交通課題に対応した持続可能な地域交通体系を確立するため、各地域の実情に応じ効率的で利便性を確保した、公共交通機関を軸とする地域交通計画を策定します。  ○地域交通計画の策定 H22：検討 ⇒ H26：策定

\*コンパクトシティ 従来のような人口増大が見込めない状況下において都市の活力を保持する政策の一つで、市民生活に必要な多様な機能が集積している都市の形態。都市の拡大を抑制し、都心部や各拠点の土地の高度利用により、職住近接による交通渋滞の緩和・環境負荷の低減が見込まれるだけでなく、近郊の緑地や農地の保全が図られるとされる。

\*ICカード 情報の記録や演算をするために半導体集積回路(ICチップ)を組み込んだカード。従来の磁気カードと比べ情報容量が格段に増加する。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>公共交通利用促進事業</b>  市) 総合交通計画部 [64百万円]	地域において、アンケート等によるコミュニケーションを図ることにより、市民自らが過度の自動車利用を控え、公共交通へ自発的に転換することを促すとともに、学校教育における公共交通の利用啓発を進めます。  ○公共交通への自発的転換促進 H22：検討 ⇒ H26：実施
<b>北海道新幹線推進事業</b>  市) 総合交通計画部 [80百万円]	北海道新幹線の札幌延伸の早期実現に向けて、関係機関と連携した要望活動や市民への情報発信による地元機運の醸成を図るとともに、新幹線開業を見据えたまちづくりの検討を進めます。  ○早期の認可・着工の決定 H22：－ ⇒ H26：着工 ○啓発・PR活動の実施回数 H22：16回 ⇒ H26：20回
<b>丘珠空港利用促進事業</b>  市) 総合交通計画部 [20百万円]	関係行政機関および民間事業者等と共同で策定した「丘珠空港活性化プログラム」に基づき、丘珠空港路線の航空利用の拡大や空港のにぎわい創出、情報発信の充実等、丘珠空港の利用促進を図ります。  ○丘珠空港路線の利用者数 H22：155千人 ⇒ H26：170千人
<b>都心アクセス道路強化事業</b>  市) 総合交通計画部 [39百万円]	都心へのアクセス強化や都心内の交通機能強化および都心部を通過する自動車を効果的に抑制することを目的として、豊平川通の南伸・北伸について、整備効果の検証や課題解決のための技術的な検討を進めます。  ○都心アクセス強化道路の計画検討（豊平川通北伸） H22：－ ⇒ H26：計画検討
<b>自転車マナー向上対策の拡充</b>  市) 地域振興部 [10百万円]	都心部の歩道上を歩行者が安全に通行できるように、自転車の「押し歩き（推奨）地区」を設定し、歩行者の安全な通行を確保します。また、インターネット上に「〔仮称〕バーチャル*自転車教習所」を開設し、市民が自らルール等を学べる環境整備を行います。  ○都心部に押し歩き地区を設定 H22：－ ⇒ H26：設定 ○バーチャル*自転車教習所の利用者数 H22：－ ⇒ H26：20,000人
<b>総合的な駐輪対策の推進</b>  (建) 総務部 [1,372百万円]	「札幌市自転車利用総合計画」に基づき自転車利用の適正化を図るため、都心部では、放置禁止区域の拡大に向けた公共駐輪場の整備検討や官民協働手法による駐輪容量の確保を進めるとともに、駅周辺についても駐輪場の整備に努め、放置禁止区域の指定を検討します。  ○駐輪場整備台数（都心部） H22：5,571台 ⇒ H26：6,721台 ○駐輪場整備台数（駅周辺） H22：42,259台 ⇒ H26：44,039台

\*バーチャル 仮想・疑似的。

### 3-4-2 魅力あふれる都市のまちづくり

将来を見据えた都市構造への強化を推進するため、「札幌市都市計画マスタープラン」の見直しを進めるとともに、JR苗穂駅周辺地区や民間再開発への支援を進めます。

また、都心の魅力と活力をさらに高めるため、北1西1地区の再開発事業の推進や大通交流拠点の整備、南一条のまちづくりの検討などを進めます。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>将来を見据えた都市構造 (コンパクト・シティ*)への 強化推進事業</b>  市)都市計画部 [40百万円]	「札幌市都市計画マスタープラン」の基本理念である「持続可能なコンパクト・シティ*への再構築」を着実に実現していくため、人口減少、超高齢社会*、環境問題、安全・安心といった今日的なニーズを踏まえ、都市計画マスタープランの見直しを行います。  ○用途地域等の全市見直し H22：検討 ⇒ H23：実施 ○都市計画マスタープランの見直し H22：－ ⇒ H26：実施
<b>郊外住宅地のエリア マネジメント*推進事業</b>  市)都市計画部 [48百万円]	郊外住宅地における課題を解決し、総合的な地域のまちづくりを進めるため、エリアマネジメント*手法を中心とした取り組みを行います。  ○地域各種団体との勉強会の開催 H22：－ ⇒ H26：20回 ○エリアマネジメント*手法を活用した取り組み H22：－ ⇒ H26：3事業
<b>苗穂駅周辺地区の まちづくり事業</b>  市)都市計画部 [1,447百万円]	苗穂のまちづくりの核を創造するため、JR苗穂駅を移転するとともに、自由通路、駅前広場、ネットワーク道路などの公共施設の整備に着手します。  ○施設整備 H22：－ ⇒ H26：着工
<b>民間再開発による 苗穂まちづくりへの支援 (北3東11周辺地区)</b>  都)市街地整備部 [188百万円]	苗穂駅の移転と連携した民間再開発の支援を行うことにより、にぎわいの核を創出し、周辺の再開発の喚起・誘導を図ります。  ○再開発事業の進捗 H22：検討 ⇒ H26：組合設立
<b>民間再開発による まちづくりへの支援</b>  都)市街地整備部 [6,836百万円]	民間活力を活用し、土地の健全な高度利用と都市機能の更新を図るため、公共施設の整備や防災性の向上など、安全で快適な都市環境の形成が進められる再開発事業を支援します。  ○琴似4・2地区再開発事業 H22：工事中 ⇒ H25：完了 ○北8西1地区再開発事業 H22：－ ⇒ H26：着工 ○南2西3南地区再開発事業 H22：－ ⇒ H26：着工
<b>創世1.1.1区* 北1西1地区市街地 再開発推進事業</b>  市)都市計画部 [4,429百万円]	創世交流拠点（都心の骨格軸である大通と創成川通の交差点）のまちづくりを先導する事業であり、今後の札幌の文化芸術・創造的な市民活動の拠点となる「（仮称）市民交流複合施設」を実現する北1西1地区再開発事業を推進します。  ○北1西1地区市街地再開発事業の事業化 H22：検討 ⇒ H26：着工
<b>（仮称）市民交流複合施設 の整備【再掲】</b>  市)都市計画部 観)文化部 [7,793百万円]	2,300席規模のホール等を備え、将来の市民の文化芸術・創造活動の拠点となる「（仮称）市民交流複合施設」について、北1西1地区再開発事業により整備します。  ○（仮称）市民交流複合施設の整備 H22：検討 ⇒ H26：着工

\* **エリアマネジメント** 一定の地域（エリア）における、安全・安心・美しさ・豊かさなど、環境の維持・向上・管理を実現していくための地域住民・事業者・事業者・地権者などによるさまざまな自主的取り組み。

\* **創世1.1.1区** 大通西1丁目、大通東1丁目、北1条西1丁目の街区を表す。一般公募により命名。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>西2丁目地下歩道整備 計画推進事業</b> 市) 総合交通計画部 [1,448百万円]	<p>創世1.1.1区*北1西1街区の再開発により増加する交通の円滑化や公共交通機関へのアクセス性向上および都心の回遊性向上を目指し、地下鉄東豊線の整備に合わせて建設された躯体を活用して地下歩道を整備します。</p> <p>○西2丁目地下歩道の整備 H22：検討 ⇒ H26：着工</p>
<b>大通交流拠点まちづくり 推進事業</b> 市) 都市計画部 [2,158百万円]	<p>大通交流拠点整備事業として、札幌駅前通と大通との交差点部地下（地下鉄南北線大通駅コンコース）について、札幌駅前通地下歩行空間や民間ビル等と連携した整備を行います。</p> <p>○大通交流拠点の整備 H22：検討 ⇒ H25：整備</p>
<b>南一条まちづくりの 事業化検討</b> 市) 都市計画部 [ - ]	<p>札幌の中心商業地である南一条地区について、地上・地下整備の事業化検討や、回遊性・利便性の向上に資する交通機能の導入、官民協働による地域価値向上など地区再生の具体策について検討を行います。</p> <p>○南一条地区整備の事業化 H22：検討 ⇒ H26：事業化判断</p>
<b>都心まちづくり戦略 事業化推進</b> 市) 都市計画部 [25百万円]	<p>平成22年度に策定した「さっぽろ都心まちづくり戦略」で、重点地区として位置づけた創成川以東地区のまちづくりを促進するため、まちづくり計画を策定します。</p> <p>○創成川以東地区まちづくり会議の設置 H22： - ⇒ H23：設置          ○創成川以東地区まちづくり計画の策定 H22： - ⇒ H24：策定</p>
<b>都心エリアマネジメント* 推進事業</b> 市) 都市計画部 [28百万円]	<p>都心各地区の特性に合わせたエリアマネジメント*を推進するとともに、地区間の連携支援を実施します。あわせて、都心の一体的な魅力向上に取り組む「都心まちづくり推進会議」を設立し、重層的なエリアマネジメント*体制の確立を図ります。</p> <p>○都心全体のエリアマネジメント*組織設立 H22：検討 ⇒ H26：設立          ○地区が連携した都心部活性化の取り組みの実施 H22：検討 ⇒ H26：すべての地区での実施</p>
<b>札幌駅交流拠点 まちづくり推進事業</b> 市) 都市計画部 [28百万円]	<p>将来の北海道新幹線の札幌駅延伸を見据え、道都の玄関口としての拠点性を高めることを目的に、札幌駅交流拠点再整備構想を策定します。また、策定した構想を踏まえ北5西1街区等の周辺街区を含む土地利用について整備基本計画を策定します。</p> <p>○札幌駅交流拠点再整備構想の策定 H22：検討 ⇒ H24：策定          ○整備基本計画の策定 H22： - ⇒ H26：策定</p>
<b>創世交流拠点 まちづくり推進事業</b> 市) 都市計画部 [23百万円]	<p>創世交流拠点（都心の骨格軸である大通と創成川通の交差点）において、地区全体の将来のまちづくりの方向性を示す「まちづくりガイドライン」の検討や、先行街区である北1西1地区に続く各街区の事業化検討に官民協働で取り組みます。</p> <p>○創世交流拠点まちづくりガイドラインの策定 H22：検討 ⇒ H25：策定</p>
<b>総合的な駐輪対策の推進 【再掲】</b> 建) 総務部 [1,372百万円]	<p>「札幌市自転車利用総合計画」に基づき自転車利用の適正化を図るため、都心部では、放置禁止区域の拡大に向けた公共駐輪場の整備検討や官民協働手法による駐輪容量の確保を進めるとともに、駅周辺についても駐輪場の整備に努め、放置禁止区域の指定を検討します。</p> <p>○駐輪場整備台数（都心部） H22：5,571台 ⇒ H26：6,721台          ○駐輪場整備台数（駅周辺） H22：42,259台 ⇒ H26：44,039台</p>

### 3-4-3 市有建築物の保全、長寿命化などの推進

市有建築物の多くが政令指定都市移行後に集中的に整備されており、今後建て替え需要が集中することから、計画的な保全を推進して施設の長寿命化を図ります。

また、(仮称)白石区複合庁舎の整備など、老朽化した施設の耐用年数を考慮して、改築等を順次進めていきます。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
<b>市有建築物の総合的な保全の推進</b> 都) 建築部 [11,394百万円]	今後一斉に更新時期を迎える市有建築物の長寿命化を図るため、計画的に保全を実施します。また、保全に合わせて新エネ・省エネ技術の導入やバリアフリー*改善を実施します。 ○保全実施延べ施設数 H22：－ ⇒ H26：120施設
<b>札幌市立大学施設整備費補助</b> 政) 政策企画部 [265百万円]	公立大学法人札幌市立大学の校舎等、施設設備を大規模改修するため、整備費補助を行います。 ○適切な保全の実施 H22：－ ⇒ H26：実施
<b>学校給食における衛生管理の充実・向上</b> 教) 生涯学習部 [165百万円]	より安全に給食を提供するため、汚染区域と非汚染区域*を区分する整備など学校給食の施設・設備を改善し、衛生的な給食調理環境を整えます。 ○汚染区域と非汚染区域*を明確に区分している学校 H22：16校 ⇒ H26：98校
<b>中学校格技場整備事業</b> 教) 生涯学習部 [660百万円]	必修となる体育の武道について、安全で円滑な授業を行うため、格技場を未整備校に設置します。 ○中学校への格技場設置数 H22：66校 ⇒ H26：72校
<b>市有建築物の改築等</b> 都) 建築部 [2,713百万円]	老朽化した市有建築物について、耐用年数等を考慮し、順次改築を進めるとともに、地区センターへエレベーターを設置するほか、東日本大震災の発生を踏まえ、区役所へ非常用発電設備を設置します。 ○エレベーター設置未着手の地区センター数 H22：7カ所 ⇒ H26：3カ所 ○区役所への非常用発電設備設置数 H22：－ ⇒ H26：5区役所
<b>(仮称)白石区複合庁舎整備事業</b> 市) 地域振興部 [4,306百万円]	白石区役所、保健センター、区民センター、区保育・子育て支援センターを南郷通1丁目へ複合化し移転整備します。あわせて、地域のにぎわい創出や区民の利便性向上に寄与するような民間施設の導入を図ります。 ○(仮称)白石区複合庁舎の整備 H22：－ ⇒ H26：着工
<b>学校施設改築事業</b> 教) 生涯学習部 [20,756百万円]	児童生徒の安全を守り、地域住民の避難場所としての性能を確保するため、耐震性能が低く、かつ老朽化が進んだ学校施設の改築を行います。 ○計画期間内に着手する学校数(累計) H22：－ ⇒ H26：12校

政策  
目標3

重点  
課題4

将来を見据えた魅力ある  
都市の整備

## さっぽろ“えがお”指標

	現 状 値	目 標 値
<b>【市民意識・行動指標】</b>		
・札幌市が「自転車のルールやマナーが守られている安全なまち」だと思う人の割合	18.0% (H23)	40% (H26)
・公共交通に対する満足度	45.0% (H22)	55% (H26)
・住んでいる地域の住環境に満足している人の割合	55.7% (H22)	60% (H26)
・札幌の都心に「にぎわい」があると感じる人の割合	63.0% (H22)	70% (H26)
<b>【社会成果指標】</b>		
・公共交通の利用者数	107万人 (H22)	108万人 (H26)

## 各主体の主な役割

